

研究機関名：東北大学

受付番号： 2014-1-818
研究課題名 大腸側方発育型腫瘍の癌化に関する microRNA の同定
研究期間 西暦 2015 年 04 月（倫理委員会承認後）～2016 年 03 月
対象材料 <input checked="" type="checkbox"/> 病理材料（対象臓器名 大腸 ） <input type="checkbox"/> 生検材料（対象臓器名 ） <input type="checkbox"/> 血液材料 <input type="checkbox"/> 遊離細胞 <input type="checkbox"/> その他（ ）
上記材料の採取期間 西暦 2009 年 4 月～2014 年 12 月
意義、目的 microRNA は内在性の 20 塩基前後の機能性 non-coding RNA で、遺伝子発現の転写後抑制に関わることが知られている。大腸の側方発育型腫瘍（以下 LST）と隆起型ポリープでは、形態形成に関する microRNA のアレイが異なるのではないかと考えた。目的は LST の形成に関わる microRNA を同定し、隆起型ポリープとの相違を明らかにすること。さらにその中から、がん化や浸潤、上皮間葉移行を抑制する可能性の高い microRNA を見出すことで、早期大腸がんの診断にかかわるマーカーや治療ターゲットを開発する。
方法 当科で内視鏡治療した早期大腸がん組織のホルマリン固定・パラフィン包埋組織からキットを用い RNA を抽出する。品質をチェックし適切なサンプルを選択する。LST（腺腫、粘膜下層にとどまる癌（SM 癌）、隆起型ポリープ、正常粘膜で網羅的 microRNA array 解析を施行する。発現量の変化が大きい microRNA を同定し、培養細胞株で、腫瘍細胞の浸潤、遊走能、上皮間葉転換（EMT）に及ぼす影響を検討する。
問い合わせ・苦情等の窓口 東北大学病院 消化器内科 大腸グループ 仙台市青葉区星陵町 1-1 Tel:022-717-7171 角田 洋一